

古城梅の生産安定対策

1 ねらい

「古城」は「南高」よりも熟期が早く、青果としての有利販売が可能であるが、近年、作柄の年次変動が大きいいため、着果安定技術の開発が急務となっている。そこで、電池式授粉機（ラブタッチ）を用いた人工授粉および、授粉品種「八郎」「紅王」の高接ぎによる着果率向上効果を明らかにする。

2 普及活動の経過及び成果

1) 園地の場所： 田辺市新庄町 面積：10 a
古城12年生 棚栽培

- ・試験1 「南高」の粗花粉を石松子で希釈し、電池式授粉機（SK-2, ミツワ）を用いて授粉した。



表1 人工授粉が「古城」の着果に及ぼす影響

	授粉時期	着果率 (%)
人工授粉 (花粉：南高) (希釈倍率 10 倍)	5 分咲き (3/1)	6.7
	9 分咲き (3/7)	5.3
	5 分 + 8 分	9.8
対照 (人工授粉なし)		4.0

(H24.5.25 調査)



・試験 2 古城の授粉用品種として、「八郎」及び「紅王」を高接ぎ（H20年9月）し、着果効果をみた。

表2 試験園における品種別開花時期（平成24年）

八郎	2/27 ~ 3/13
紅王	2/23 ~ 3/1
古城	2/25 ~ 3/10



表3 授粉枝高接ぎによる着果効果（高接ぎ部から半径1.5m）

	3/1	5/27	着果率
八郎	319花	16果	5.0%
紅王	450花	14果	3.1%
八郎+紅王	386花	31果	8.0%
対照（高接ぎなし）	391花	11果	2.8%

2) 結果および考察

・人工授粉における着果率は、5分咲き1回処理が6.7%、9分咲き1回処理が5.3%、5分+8分咲き2回処理が9.8%、対照（無処理）が4.0%で、5分+8分の2回処理が高かった（表1）。

・高接ぎ枝の開花時期は、「八郎」が2/27~3/13、「紅王」2/23~3/1、「古城」2/25~3/10で、「古城」の開花期に比べ「八郎」はやや遅く、「紅王」はやや早かった（表2）。

・授粉枝高接ぎによる着果率は、「八郎」が5.0%、「紅王」3.1%、「八郎」+「紅王」が8.0%、対照が2.8%で「八郎」+「紅王」が高かった（表3）。

2) 考察

以上の結果から、着果の悪い「古城」に人工授粉をおこなうことで、ある程度着果率が向上することが分かった。しかし、劇的な着果率向上とまでは至らず、授粉だけの問題ではない（例えば個々の樹の性質等が影響）と考えられた。

また、「古城」の授粉樹（枝）として「八郎」と「紅王」の2品種を導入すれば「古城」の開花期間をカバーでき着果率を高められるが、この場合も劇的な着果率向上とまでは至らなかった。